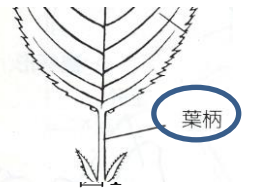


◎高山植物に親しもう②(夏)

春の高山植物は見つけることが事が出来ただろうか。良く見ると、今まで気づけなかった花々が目に飛び込んでくるだろう。そして写真と本を見比べても名前を特定できない花は無かったらうか？そして、花の名前を知ろうと別の本を買って・・・ここまでくれば立派な高山植物愛好家です。

* 夏から秋にかけては沢山の花が咲く。夏秋の季節区分の移動についてはご容赦願いたい。



A. 緯度と高度による高山植物の分布

同じ高山植物でも高度によって(植物の垂直分布と言ひ、羊蹄山が有名)緯度によって花の咲く時期が異なる。又土壌の内容(蛇紋岩には独特の花が咲く)により咲く花も違って来る。又花の色は交雑により微妙に変化している。これらを見るのはまた楽しい。



①ハクサンイチゲ

B. 高山植物の見分け

高山植物は似たような花が沢山あり特定が難しい。そこで比較的簡単な見分け方を紹介しよう。まず図1の葉柄の有無。代表例がイチリンソウ(有)、ニリンソウ(無)、樹木ではミスナラ(無)、コナラ(有)等。また花びらの枚数での比較。白い花のイチゴ類ではヘビイチゴ類は5枚、ノゴウイチゴは7枚である。花の下の総苞(緑の部分)が西洋タンポポは垂れ、日本タンポポは垂れない。他に沢山有り要観察。



②イワギキョウ

C. 夏の高山植物

限られた紙面で説明するのは至難の業である。とてもこの紙面で写真も交えて語れるものでないがあえて独断と偏見で今まで見かけ、記憶に残った花を順不同いくつか紹介しよう。

- ①ハクサンイチゲ: 高山等で良く見かける定番の白い花。花が大きく見つけ易い。
- ②イワギキョウ: 紫の綺麗な花である。似たようなチシマギキョウとの見分けは花びらに毛がある(チシマギキョウ)毛がない(イワギキョウ)でもわかる。
- ③コマクサ: つぼみが馬の顔の形に似ているからこの名前がある。高山植物の女王とも呼ばれている。成育環境の厳しい砂礫帯に咲き、群生する。群生地として、岩手山、蓮華岳(白色がある)、白馬岳、大雪山が有名。
- ④イワウメ: 岩場に生え、花が梅に似ているからこの名がついた。低木である。
- ⑤イワベンケイ: サボテンの様な厚い葉が特徴。岩場の登山道で良く見かける。
- ⑥マルバダケブキ: 南アルプスに多くみられる。葉はフキに似ているが花は黄色。



③コマクサ

- 毒を持ち、鹿等の食害が無いので大きく群生し、山の斜面の登山道を埋め尽くす。
- ⑦ウサギギク: ウサギの耳の様な形をしている葉からこの名がついた。黄色い綺麗な花が特徴的。
- ⑧ヤナギラン: 紅紫色の綺麗な花を付ける。葉は柳葉に似て、この名がついた。背が高く目立つ。
- ⑨ミヤマコゴメグサ: 風衝地の砂礫地帯に小さな白系の花を付ける。まとまって咲く場合が多い。
- ⑩キヌガサソウ: 沢沿いの湿った場所に咲く。大きく輪生した葉が特徴で、7枚以上になると花が咲く。昔、天皇にさしかざした衣笠に例えての命名。
- ⑪ツガザクラ: 白い釣鐘状の小さな花と、針葉樹のツガの様な葉が特徴的。高山の砂礫帯に生える低木。花が青黄色のアオツガザクラも有名。
- ⑫チングルマ: 高山の岩場などに群生し白い花を付ける。花が散ると羽毛状の実を付け、これが子供をあやす風車に似ており、名がついた。
- ⑬トウヤクリンドウ: 夏の終わりを告げる花である。薬用になるのでこの名がついた。晴れると花が開く。日本ではこのリンドウのみがクリーム色。
- ⑭シナノキンバイ: 黄色の高山植物は沢山あるが、花が大きく群生し、お花畑を形成するので見つけ易い。深く切れ込んだ葉も特徴。
- ⑮サラサドウダン: 近隣の山でも見られる。釣鐘状の花をびっしり付け綺麗である。又近種で花が全体的に赤いベニサラサドウダンも見事である。
- ⑯ハクサンチドリ: 濃い紫色の花が特徴的で花の先端が尖って見える。似たような花でノビネチドリ、テガタチドリも有るので調べて欲しい。
- ⑰ハクサンフウロ: 薄紫で清楚のこの花も登山道で目立つ花である。フウロの仲間も多いが色が更に濃い、タカネグンナイフウロも綺麗だ。
- ⑱ミヤマクワガタ: 砂礫帯に生える紫色の花で2本の雄しべと雌しべが目立ちクワガタに例えた。



④イワウメ



⑤イワベンケイ



⑥マルバダケブキ



⑦ウサギギク



⑧ヤナギラン



⑨ミヤマコゴメグサ



⑩キヌガサソウ



⑪ツガザクラ



⑫チングルマ



⑬トウヤクリンドウ



⑭シナノキンバイ



⑮サラサドウダン



⑯ハクサンチドリ



⑰ハクサンフウロ



⑱ミヤマクワガタ

◎ほんの一部しか掲載できなかったが、登山道脇の高山植物にも目を向けて欲しい。覚え始めると花を見るのが楽しい。